主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張ってのぼる。

つばさ静岡

社会福祉法人 小羊学園
〒431-1304
静岡県浜松市細江町中川7440-1
電話:053-437-0826　FAX:053-437-0849
E-mail kohituji@imix.or.jp
HP http://www.imix.or.jp/kohituji/
発行人：稲　松　義　人
印刷所：(株)長田文化堂
定　価：一部30円
2006年8月25日
号　外

花の散歩道

施設長　山倉慎二

「つばさ静岡」がついに全面開所しました。この春、新たに医療的重度な方を含む入所者を受け入れるに当たっては、まさに大騒動といった状況で、利用される方々にはたいへんなご迷惑をおかけしたことと思います。この場を借りてお詫びいたします。

またその最中、障害者自立支援法の施行に伴う準備、また診療報酬改定による大幅な減収と、次々に大きな問題に直面し、今の「つばさ静岡」はとても大空に羽ばたくどころではなく、よちよち歩きのひな鳥がかろうじて立っているだけの状況といったところでしょうか。さらに職員不足などの問題も生じ、安定した体制が整うにはまだしばらく時間がかかりそうですが、中身の充実に向けては日々努力しているところです。

先日、「つばさ静岡」利用者のご家族の方々が「花の散歩道」というイベントを行って下さいました。広いホールいっぱいに花が飾られ、訪れる利用者ひとりひとりがその花を摘んで、用意された花かごに挿して行きました。親の会の方や職員が手助けしたのは言うまでもありませんが、特別生け花の知識などのない彼らが、思うままに花を挿していくだけで、それが彼らの感性なのでしょうか、みごとなたくさんの芸術作品が生まれました。

我々人間は生きるために、何にでも手を加えます。そのおかげで便利になり、楽しみが増え、行動範囲が広がり、豊かな生活を送れるようになったのは事実です。そこがヒトと他の動物との違いであり、それが文明というものなのでしょう。ただ美しさという点においてはどうでしょうか。どんなに美しく描かれた花の絵があっても、本物の花には到底かないません。自分の胸を打った大自然の風景を他の人に伝えようと写真を撮ってみても、現像されたものではその感動はなかなか伝わらないものです。

重心の子供たちには、そういう人の手の加わらない自然な姿があります。我々大人が失ってしまった感性をそのまま持ち続けているような気がします。どれほど私たちが努力して自分を飾り、繕い、りっぱな姿を見せようとあがいても、彼らの自然な姿にはかなわないように思えます。そう感じるのは私だけでしょうか。

つばさでのこれから

つくし　湯本　恵美

つばさ静岡の一員として新たな一歩を踏み出しました。期待と不安が入り混じったスタートです。

短期間でしたが総合病院での勤務を経てたくさんの患者様と出会うことができました。心に残る出会いもたくさんありました。しかし、いつも多忙な業務に追われ、一人の患者様とのかかわりは「これでいいのか？」と疑問に思うことが多々ありました。そして余裕がなくなり、自分の嫌な自分になることもありました。

そんな中、つばさ静岡の存在を知り、心踊る思いがしました。いつかは医療現場から少しはなれて福祉の仕事がしたいと心の中で暖めていました。障害をもった人々の人生、というのは大袈裟かもしれませんが、生活の手助けができたらという思いと、彼らから多くの学ぶことがあるだろうという思いから迷わずつばさ静岡を選択しました。

わたしの期待は裏切られることがありませんでした。スタッフがとてもやさしく温かいことです。一人ひとりの入所者とともに過ごすときの笑顔や、真剣に向き合う姿が輝いて見えます。入所者一人ひとりの個性をよく理解していて、かかわりを大切にしているのがすごく伝わってきます。スタッフが入所者と接している姿やスタッフ同士を思いやる姿を見ると、自分ももっと成長しなければと、前向きな気持ちになれます。

少しずつですが入所者一人ひとりの個性がわかるようになってきました。でもまだわたしが見たことのない入所者の姿や表情があると思います。一日も早く慣れて、ゆとりを持って入所者とかかわれるようになり、もっと入所者の個性を知りたいです。そして彼らの声にならない訴えを読み取れるようになりたいです。

つばさは入所者にとって生活の場なので、遊びやケア、スキンシップを通してわたしも何かを与えることができるように成長したいです。

園芸活動

のどか　秋山　有紀

梅雨の中休みも終わり、再び雨が続くなか、先日のどかAでは紫陽花やアサガオ、ミニトマトの苗を育て始めました。

Hさんは、軍手をつけてあげると興味がわいたのか、スコップを持ちプランターの中の土と肥料をゆっくりと混ぜ合わせ、隣に座っているKさんに「Kちゃん！」と腕に手を伸ばし「一緒にやろう」と笑顔で訴えていました。とても楽しそうでしたが、苗を手渡すと先ほどとは一変し、とても真剣な表情で苗だけをじっと見つめ、右手で受け取りゆっくりと左手を添え、プランターの中へと運んで行くきました。いつも笑顔がたえないHさんですが、そのときは、苗についている土が崩れてしまうと、一瞬眉間にしわがより、小さな苗をそっと持ちたいのだがうまく力が入らず、自分の思いとは違う方向へ動いてしまうことに、もどかしさを感じているようでした。職員が持ち方を変えようと「一度離してみて」と声かけても、ギュッと持ったまま「このまま私がやりたい」といった強い意志が目に現れていました。またYさんは苗の葉っぱを引っ張り、自分の頬へもっていき感触を楽しんでいるかのようでした。

Hさんは苗がすくすく成長するようジョロで水をまき大事に育てています。アサガオは以前よりも大きくなり、ミニトマトは緑の実がたくさん実ってきているところです。梅雨が明けたら、初めてつばさに来る夏とともに真っ赤な実や花が咲くのがとても楽しみです。

入所者家族へのアンケート調査報告

邑田みずほ　鉢呂美衣　浅野一恵

昨年10月につばさ静岡が開設してから半年が経過し、利用者の方々が新しい環境に慣れ、徐々に平静な生活を過ごせるようになってきました。しかしながら、つばさ設立にあたって当初地域から求められた使命に対し、われわれ職員が日々努力できているのかどうか疑問に感じることがありました。半年が経過した現時点で、利用者ご家族の施設に対する評価と要望を明らかにすることが、今後の利用者への処遇を改善し施設の方向性を考えていく上で有意義と考えアンケートを施行しました。

方法　平成18年5月時点での入所者51家族の保護者に対しアンケート用紙を送付し、無記名で回答していただきました。質問内容は①入所前の生活②入所を決意した理由③入所時期について④入所後生じた不安の内容とその対応の仕方⑤現在の入所生活に対する満足度⑥スタッフの対応に対する満足度などの項目で、当てはまるものに丸をつけてもらい一部自由回答としました。

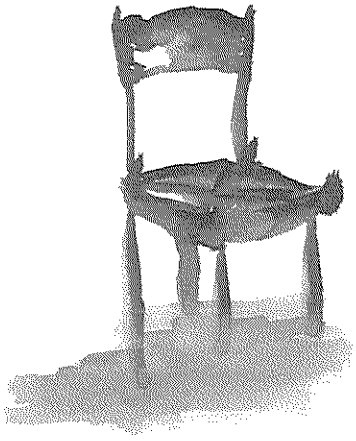
結果　51家族中32家族（63％）から回答がありました。入所を決意した経緯は家庭での介護が困難という理由が最多でした。入所時期に関しては適切な時期であった53％、考えていたより早い28％でした。入所後生じた不安の内容で多かった回答は日常生活の様子（18回答）で、子と離れること自体と答えた人も9回答ありました。不安に対して現在解決している、または完全に解決できていないが納得しているは85％でした。不安内容に関して63％が何らかの形で現場の職員に伝えることができていましたが、一方伝えることができていない保護者が23％いました。

現時点での入所生活の評価は食事、居室、入浴、医療に関してはよい、またはどちらかといえばよいと答えた人が9割でした。一方日常の活動、情報伝達、口腔ケアに関してはよい、またはどちらかといえばよいと答えた人は6～7割で比較的評価が低い傾向がありました。自由回答では施設での様子をもっと知りたい、スタッフともっと話がしたい、スタッフ同士での申し送りが不十分等の情報伝達に対する要望が多く見られました。

アンケートを受けて　アンケートを集計後、職員に対し結果報告会を開催しました。職員の関心は高く40名を超える参加者がありました。感想として保護者の率直な評価と要望を知ることができ、とても有意義であったという意見が多く出されました。入所後も子の状態を把握したいという要望が予想以上に多く、保護者の思いを再認識しました。われわれ職員も保護者のそのような思いを理解し、今後利用者の様子を伝える機会を増やすことで保護者の不安を和らげ、信頼関係を築くことが出来るのではないかという意見が出されました。

特に保護者への情報伝達方法に関しては改善すべき点が多いと考えられ、活発な討議が行われました。家族面会時に現場のスタッフが利用者の様子を伝えることを徹底するほか、掲示物の有効な利用等をさらに今後試行すべきとの意見がありました。

今回アンケートを通じて保護者の方々の率直なご意見を賜ったことで、利用者のよりよい生活を考える機会を与えられました。このアンケート結果が今後の利用者の処遇に活かせるよう、定期的に会議などで議論を続けていきたいと考えております。



おしらせ　―苦情解決について―

苦情として処理したもののみ（日常的なやり取りの中での要望や指摘のすべてではありません）

◆対象：入所5件、通所5件、短期入所3件

◆内容：援助に関するもの11件（利用者とのかかわりについて3件、介護の内容・方法について11件）髪の乾かし方・洗濯物の扱い・衣類の着せ方など制度に関するもの2件

◆対応の状況：職員の取り組みや意識の改善8件、介助の方法・手続き等を変更することで改善3件、設備等の改善・職員数の増加による解決3件、説明により納得1件

編集後記

皆さんの期待の大きさとそれに比して自分たちの力の弱いことを痛感しながら、あわただしく時が過ぎていきます。そのなかで、利用者の笑顔や、ご家族の方たちのお子様への強い思いや、地域の方たちの優しさに接することができて感謝の気持ちでいっぱいです。

苦情の扱いについては情報公開のひとつとしてご報告いたします。財務状況などについては、ご希望の方には、窓口で閲覧することができます。

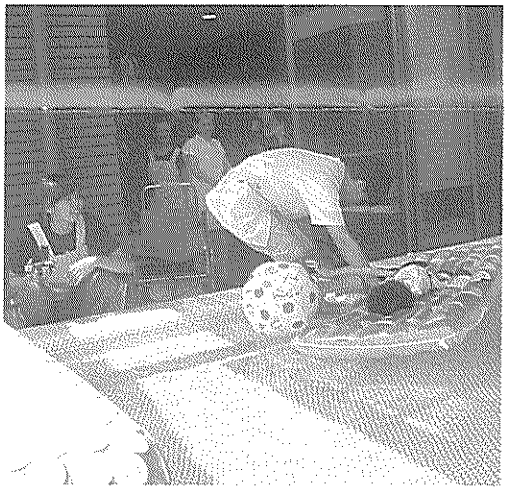
（J）

私の好きな時間

わたぐも　宮城あゆみ

わたぐもの一日の中で、私が一番好きな時間は、お散歩の時間です。晴れの日、くもりの日、今にも雨が降り出しそうな日など、いろいろあってどれも好きです。晴れの日には木陰でひと休みしたり、くもりの日にはのんびり歩いたり、雨が降り出しそうな日には大騒ぎして歩いたりします。私が担当させてもらっているKさんは、お散歩に出掛けると、左手を光にかざして楽しんでいます。だからどんな天気でも、Kさんが楽しんでいる姿を見ることができるお散歩の時間が、私は好きです。

また、四月には桜、桜が散り新緑、小さな花々、今はあじさいが咲いています。高校生の頃、友達とおしゃべりしながら通り過ぎていた道を、今では利用者さんとおしゃべりしながら、ふと足をとめて、つぼみをつけるところから枯れ落ちるまでをゆっくり味わっています。そんな花々の様子を私のもう一人担当させてもらっているTさんに話しかけます。すると、Tさんは鼻の下を伸ばしたり、舌をペロッと出して、「聞いているよ。」と合図をしてくれます。だからどんな季節でも、Tさんとお話ができるお散歩の時間が、私は好きです。



退職します。みなさんありがとう。

杉本　民

わたぐもで働き始めて、早いもので3ヶ月が過ぎようとしています。職員や利用者さんたちなど、たくさんの人たちに助けられて、なんとか今の私がいます。

つばさ静岡の準備室から15ケ月でした。不安の中で始めた、社会福祉会館での相談室、たくさんの方が尋ねて下さり、親御さんの施設への期待は、痛いほどに伝わりました。入所を希望されるお母さんの、ゆれる気持ちは目に見える映像のように感じ、それは私たち施設職員が、入所者をどのように受け入れようと考えているのかが、問われている思いがしました。10月からの立ち上げは、いろんな面での準備不足があり、新開設にありがちなバタバタした日常でした。家族の方、皆さんに、これで大丈夫なんだろうかと、心配され、ますますバタバタする始末でした。現状の中で、真っ先に自分を取り戻したのは利用者の皆さんです。そんなに焦らなくてもいいよ、私たちは待っていられるから、という声が聞こえ、心強い味方になりました。利用者のまなざしに誰もが慰められ、元気をもらいました。焦っても良い結果はでない、利用者一人一人の表情に耳を傾け、理解することで、一歩一歩前に進むことができました。

重症心身障害児者といわれる人々の看護に、ここまで従事することができたのは、ありのままに生きる人たちの存在であり、自分が教えられることの安心感でした。仕事から学ぶことは、どんな仕事でも多いことですが、重心の看護の仕事はそれらに勝りました。なぜ、そう思うのでしょうか？それには多くのお母さんたちが、これまでに何度も教えてくださいました。「この子をもったことで、自分が育ちました、ありがたいことです」と。

私たちもまた、こんな出会いがあってこそ、豊かさを与えられたのです。私は、何もできなかったのに・・・もらってばかりでした。言い尽くせない感謝です。

ミニコンサートでのオカリナ演奏

職員募集

看護師を求めています。

障害をもつひとかかわりたい。一人ひとりと向き合う看護がしてみたいという方、ぜひご一報ください。まずはご見学においでください。

支援員募集

今すぐ働ける方を探しています。

準職員（19年3月までの期間契約）ですが、正規採用の道があります。

いずれも詳しいことは、つばさ静岡にお問い合わせください。